

2020 年度外部評価を終えて

2020 年 10 月 15 日

外部評価委員：山本義和・中野孝幸・佐藤信紘・由本陽子

各外部評価委員による評価は、自己点検・評価報告書の A 表と B 表に記されています。ここでは、外部評価委員 4 名が今年度の評価作業を通じて得た感想・意見・提案などからの特記事項を示しています。

2020 年の 2 月には、新型コロナウイルスの感染拡大によって、国内外が大混乱状態に陥りました。神戸女学院大学においても、卒業式が中止され、学生の登校禁止、閉寮になるなど、緊急事態を迎え、その状態で新年度を迎えることになりました。

今回、書面でいただいた評価書 A 表・B 表および 9 月 4 日に開催された外部評価委員会のご説明 (Zoom 会議) からは、コロナ禍での緊急事態に対する分析と具体的な取り組み内容があまり見えてこなかったと感じられます。

神戸女学院大学は、キリスト教主義の女性高等教育機関として、学院標語「愛神愛隣」に基づいて、置かれた場で時代の潮流に流されることなく、利害を超えて自らの役割を果たすことが、ポリシーとされています。コロナ禍での非常に厳しい状況下においても、チャペルアワーが欠かさず行われてきたことには敬意を表します。

2019 年度は、グローバル時代への対応、地域社会との連携など多くの取組みが実践されて成果も出て来たと評価します。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020 年度以降の活動計画は抜本的に見直す必要があると思われます。

コロナ禍で世界の大学教育、大学経営は危機的状況にあります。これまでは未経験、前例のない環境下で、教職員も学生も手探りで試行錯誤をしてきましたが、感染症に関する情報、知識、経験も増えてきた今、大学もコロナ対策と教育・研究の両立に向けてチャレンジする時だと思えます。

神戸女学院大学は率先して、大学変革に立ち向かってほしいと願います。それには、伝統的な学びのスタイルの何を残すか、そしてどの部分を ICT (情報通信技術) などの力を借りて進めるか、対面と遠隔の両面のデータに基づき科学的に分析し、全学的な、学生を交えた討議が必要です。学生の意欲を引き出し、産業界の助けも借りて、新たな教育と研究の仕組みづくりに邁進してほしいと願います。

英文学科の英語教育のプロ（TESOL 取得専任教員）の採用人事、および、共通英語教育研究センター長後任人事、いずれも欠員になっていることは、中間目標計画案 3 に挙げられている国際化教育の推進の実施において大きなマイナス要因です。人事は慎重に行わねばなりません、不調に終わった場合には迅速な対応が必須です。

環境・バイオサイエンス学科の教員構成を見ると、学科メジャー科目担当専任教員 11 名全員が教授で、高齢者が多く、女性教員は 2 名となっています。今後数年で、定年退職を迎えられる教員が多いので、教員構成の若返りとジェンダーバランスを念頭においた新任人事を行う必要があると考えられます。

大学院においては、女性のライフステージに配慮した神戸女学院のポリシーが維持できるよう、すべての研究科と専攻が協力のもと、「学位授与年限の短縮」、「研究生制度の見直し」、「退学・再入学制度」などがセットで検討されるべきと考えられます。

大学・大学院の入学者数確保も重要な課題です。音楽学部が入学定員 46 名を下回り、39 名になりました。その一方では、心理・行動科学科が定員 90 名に対して 114 名もの入学者となっています。実習科目の多い学科では、教育に支障がないような配慮が特に必要です。大学院文学研究科の在籍学生数も定員に満たない状態が続き、改善が求められます。大学院（博士後期課程）の入学者は文学研究科・人間科学研究科ともに 0 名となり、危機的状態といわざるを得ません。

2019 年度の財務の概要は昨年度とほぼ同様です。2020 年度以降は、コロナ禍対応の新たな大学教育研究システムの構築や、厳しい環境に追い込まれた在学生のための緊急支援給付金や緊急奨学金など、様々な支出が著しく増加することが予想されます。共同研究講座、寄付講座の設置、各種助成金・補助金・寄付金獲得などを積極的に進める必要があると考えられます。

創立 150 周年に向けた計画、リカレント教育推進の検討など、重要な課題が計画に挙げられていながら、1 昨年度から目に見えた進歩が見られないように思われます。新たな中長期目標を含めて、本学の明日を語る 150 周年記念事業計画を外に向けて発信する時が来ていると思われます。

コロナ禍では誰もが様々な不安を抱き、多くの困難を持っています。「KC は誰一人取り残さない」というメッセージを掲げ、教職員と学生が絆を深め、協働してこの危機を乗り越えなければいけません。リーダーをはじめとした教職員が気魄を見せて、現在の困難な実態を“見える”ように努め、理解し、そして挑戦することが大切だと思います。

以上